

2018 春闘勝利福島県中央総決起集会

労働組合の使命感を持ち、底上げ・底支えにつなげる ～弱い立場で働く人、低所得層に光をあてていく～



MAXふくしま北広場で開催した総決起集会

連合福島は、この程3月3日（土）10時～福島市内曾根田のMAXふくしま北広場において「2018 春季生活闘争勝利県中央総決起集会」を開催し、県北地域を中心に61単組1,035名が結集する中、今春闘の本格交渉を迎えるにあたって、士気を高め奮闘を誓い合った。



主催者あいさつ
今野 泰連合福島会長

冒頭、今野 泰連合福島会長は主催者あいさつに立ち、「いよいよ本格交渉の時期を迎える。企業収益が過去最高を示し、株価も高水準にあっても、労働分配率は低下し、実質可処分所得は増えていない。生活実態を示すエンゲル係数の比率も高まっており、貧困度を示すジニ係数は先進国の中で顕著、貧富の格差が大きく国民生活の厳しさを物語っている。政府が経済界に異例の賃金アップを求め5年目となるが、本来賃金は労使交渉、労使自治で決定すべきものであり、組合員の働きぶりに応える場面である。便宜主義的な安倍政権と対峙し、働く者、県民の期待に応え、交渉の論理性と労働組合としての使命感を持ち、労働条件の向上をはかりつつ、すべての働く者の底上げ・底支えにつなげなければならない。そして、クラシノソコアゲ

応援団として、社会的に弱い立場で働く人、低所得層の方々にフォーカスし、光を当てていく



連帯激励の挨拶を受けた民進党県連代表代行金子恵美衆議院議員（左）、社民党県連代表紺野長人県議

社会的役割が今、労働組合に求められている。すべての働く者のくらしの安心と安定に結び付けるため、ともに頑張りましょう！」と声高に訴えかけた。そして、民進党県連・金子



構成組織からの取り組み報告決意表明する（左から）自治労・遠藤氏、J P 労組・星氏、ゴム連合・橋本氏



61組織、1,035名が参加しました

恵美代表代行並びに社民党県連・紺野長人県議から連帯激励のあいさつを受けた。さらには、構成組織からの取り組み報告決意表明では①自治労福島県本部の遠藤 智中央執行委員、②J P 労組東北地本福島連絡協議会からは星 陽介書記長、③ゴム連合福島県協議会の橋本充彦副議長、それぞれから力強い報告を受けた。さらに集会アピールを全体で確認し、最後に今野会長のガンバロー三唱で集会を締めくくった。尚、集会に引き続き福島駅周辺3か所に分散し拡大、クラシノソコアゲ応援団！街頭大行動の取り組みを展開した。（次号以降で紹介します）